



ひすい

系魚川市立ひすいの里総合学校

学校だより 11月号 (No. 13)

令和3年11月19日発行

🍊🍌 子どもたちの成長のために 🍌🍊

新型コロナウイルス感染症の第五波も下火となり、“ほっ”としているところです。学校では、感染予防対策をとりながら通常の教育活動を行っています。10月は「文化祭」(ひすい発表会・作品展示・作業製品販売会)という大きな行事を成功裏に終えることができ、保護者の皆さんのご協力に感謝しております。先日、小学部の子どもたちのハローウィン・パーティーを見る機会がありました。集団の中で生き生きと楽しく活動する姿に、教育活動が当たり前に行えるありがたさを今更ながらに感じています。後半の教育活動も充実したものになるよう努力してまいります。



さて、少し溯りますが、10月下旬に前期の個別の指導計画の評価と後期目標と手立てを確認する機会を設けました。保護者の皆さんには学校へお越しいただき、ありがとうございました。例年、行っていることですが、前期の子どもたちの成長をお伝えするとともに、課題を確認し、今後取り組んでいく内容を検討させていただきました。子どもたちの成長は、学校だけでなく家庭と協力して支援する中で実を結んでいきます。その意味で、学校ではとても大切にしている時間です。

個別の指導計画は、学校で学習する教科・領域等について目標や指導内容、評価等を記載していますが、その中でポイントとなるのが「自立活動」です。自立活動は特別支援学校の教育課程に設けられた特徴的な指導領域です。障がいのある子どもたちの場合は、その障がいによって学習場面や日常生活において様々なつまづきや困難が生じます。そのため、生活年齢に即して教育するだけでは十分とは言えず、それを改善・克服するための指導が必要となります。それが「自立活動」です。子どもたちが自立

と社会参加を目指すときに必要となる力を育成する、または基盤をつくるための学習の時間と言えるでしょう。その指導は「自立活動」の時間だけではなく、各教科や日常生活全般においても適切に行う必要があります。

その子にとっての課題は何か、そのために今の段階で目標とすべき内容は何か、そのための支援方法はどのようにしていくかなどを保護者の皆さんと相談し、半期を単位として取り組み、評価していきます。「自分の思いをハンド・サインで表すことができるようになった。」「定時排尿ができるようになってきた。」「予定表を確認することで、落ち着いて活動に参加できるようになった。」など、自分の力でできることを増やしていくよう取り組んでいます。

(裏面 ⇒ 自立活動の内容)

領域 教科	後期目標	手立て	評 価
自立活動	・	・	
国語	・	・	
数学			
音楽			
美術			
保健体育			



<< 自立活動の内容 >>



①健康の保持

生命を維持し、日常生活を行うために必要な身体の健康状態の維持・改善を図ることがねらいです。体温調節や睡眠のリズム、食事や排泄などの生活習慣を身に付けたり、自分の病気や身体の状態を理解したりして健康面の自己管理できるようになることなどの学習をします。

- ①生活のリズムや生活習慣の形成
- ②病気の状態の理解と生活管理
- ③身体各部の状態の理解と養護
- ④障がいの特性の理解と生活環境の調整
- ⑤健康状態の維持・改善

②心理的な安定

自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲を高めることがねらいです。安定した気持ちで生活したり、場面の状況などを理解して心の抵抗感を減らしたり、適切に対応したりする行動の仕方を身に付けるなどの学習をします。

- ①情緒の安定
- ②状況の理解と変化への対応
- ③障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲

③人間関係の形成

自分や他人をよく理解し、対人関係を円滑にし、集団参加の基礎をつくるのがねらいです。人に対する基本的な信頼感をもち、他人からの働き掛けを受け止めて応じたり、他者の意図や感情を理解して場に応じた適切な行動を取ったりするなどの学習をします。

- ①他者とのかかわりの基礎
- ②他者の意図や感情の理解
- ③自己の理解と行動の調整
- ④集団への参加の基礎

④環境の把握

感覚を有効に活用し、空間や時間などの概念を手掛かりに、周囲の状況や環境と自分の関係を理解して的確に判断し、行動することがねらいです。もっている感覚を十分に活用したり、感覚過敏や認知の偏り等の特性を理解し、外部からの情報に適切に対応したりするなどの学習をします。

- ①保有する感覚の活用
- ②感覚や認知の特性についての理解と対応
- ③感覚の補助及び代行手段の活用
- ④感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動
- ⑤認知や行動の手掛かりとなる概念の形成

⑤身体の動き

日常生活や作業に必要な基本動作を習得し、生活の中で適切な身体の動きができるようになることがねらいです。日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や手足の動きの改善、関節拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を行ったり、必要な補助具を活用したり、歩行や歩行器、車いすを使った移動、手の使い方などの学習をします。

- ①姿勢と運動・動作の基本的技術
- ②姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用
- ③日常生活に必要な基本動作
- ④身体の移動能力
- ⑤作業に必要な動作と円滑な遂行

⑥コミュニケーション

場や相手に応じてコミュニケーションを円滑に行えるようになることがねらいです。コミュニケーションの基礎的な力として、表情で表す、身ぶりやサイン、発声の基礎となる呼気や発音、文字や記号、機器等を利用して意思を伝えるなどの学習をします。また、状況に応じたコミュニケーションの学習も行います。

- ①コミュニケーションの基礎的能力
- ②言語の受容と表出
- ③言語の形成と活用
- ④コミュニケーション手段の選択と活用
- ⑤状況に応じたコミュニケーション